

滋賀県森林センターだより

2007年度

〈第23号〉

普及情報

◆森づくり県民講座が行われました。

森林のもつ水源のかん養や地球温暖化防止などの多面的機能は、私たちのかけがえのない財産ですが、これらは適切な森林施業の結果として発揮されるものです。昨今の林業の不振により適切な施業がされず、放置された森林が増えてきています。この状況を改善するためには、多くの方々の協働による森林づくりが重要になってきています。滋賀県の琵琶湖森林づくり条例でも、県民との協働による「県民協働による森林づくり」を推進しています。協働による森林づくりを推進するには、森づくり活動を推進するリーダー養成が課題になります。森林センターではこの一環として、「森づくり県民講座」を開講しました。平成19年度は親子編、入門編、上級編の3講座を開講しましたのでこれについて紹介します。

親子編は1日コースで、夏休み始めの7月27日に開講しました。親と子が一緒に自然とふれあうことで森林や樹木に関心を持ってもらう内容でした。午前中に初歩的な森林体験やカブトムシなどの昆虫採取、午後は木工クラフトをして森林への関心を深めてもらいました。入門編も1日コースで、森林に親しむ体験を通じて森林を取り巻く環境等に関心を持ってもらうことを目的に、10月14日に開講しました。講座内容は、入山時の初歩的な安全対策や森林の基礎的知識の座学のあと、間伐体験を行いました。



森づくり県民講座親子編のようす



森づくり県民講座上級編のようす

上級編は、ある程度高度な知識や技術の実践を通じて森づくりのリーダーや森づくりを支える人材に相応しいリーダーを育てることを目的とし、森づくり活動の経験者を主な対象にした4日間コースで、9月に終了しました。講座内容は、①森づくり活動の企画、②森づくり活動家の体験談、③入山時の安全対策、④簡易な測量、⑤里山整備、⑥林業機械などの座学と実践を行いました。参加者は、女性も含めて20歳代から70歳代までの24名で、そのうち60歳代が約半数を占めました。受講者間の技量には差がありましたが、互いに教えあったり助け合ったりして、熱心な中にも和やかな雰囲気がありました。

上級編は、森づくりのリーダーを育てることを目的としていますが、時間の関係上、講座内容も一般的な内容にならざるを得ず、すべての技量をマスターするのは困難で、決して十分とは言えません。受講者からも、もっと掘り下げた内容をやりたいという要望と、講座に組み入れていない内容もやって欲しいという両方の要望がありました。また、昨今の現場ではエンジン付き道具の使用が前提になります。これに対応するには、受講者各自がそれを専用して実習するような講座方法が理想的ですが、それらを使いこなすレベルまで行けませんでした。森づくりの現場はそれぞれ森林の状況が異なると思います。受講された方々が県下各地の



森づくり県民講座上級編のようす

協働による森林づくりメンバーの一員となられたとき、今回の講座が少しでも役立つことになればと期待しております。森林センターでもできるだけ各地の森づくりグループの情報を受講修了者に提供したり、斡旋できる体制を整える必要があると考えています。(池本)

試験研究情報

◆ニホンジカによる造林木等の被害防除技術の確立

森林センターでは、平成17年度から19年度の3カ年で幼齢樹食害に対する被害防除技術を確立するための調査研究を実施しています。

具体的には、1. 食害時期の特定調査、2. 既存防除法の評価と新しい防除法の経費・施工性等の評価、4. 新しい忌避剤の検討、5. 既被害木の復旧方法の検討について、甲賀市内の甲賀町神(平坦地)と土山町大河原(傾斜地)の2カ所で調査をしています。

平成19年度が最終年度ですが、調査の状況を紹介します。



甲賀市甲賀町の調査地全景

【1. 食害時期の特定調査】

平成17年度～18年度の調査からは、9月～4月は被害の大きい時期であることが確認されました。しかし、5月～8月は被害が減少していましたが、これは同じ試験木を見ていることから、4月までに激害を受けたことや、餌となる広葉樹や草本類の繁茂等が影響しているのではないかと考えています。このため、19年度は4～7月の各月に、新たにヒノキ苗を植栽し、被害経過を調査しています。表からは、4月植栽は当初に相当食害を受けましたが、5月～7月植栽は当初も食害が少なく経過しています。もう少し分析しなければなりません。このことが、忌避剤処理の回数減や防護柵のメンテナンスの省力化につながることを期待できないかと考えています。



〈参考〉ヘキサチューブを施したヒノキ植栽木の頂端写真。チューブより伸長した主軸には食痕が見られる(矢印)。※写真は調査地のものでなく、他地域のものです。

今回は甲賀市内での調査ですが、被害部位に油性の黒マジックを塗るといった簡単な作業を繰り返すだけであり、他の地域においてもこのような調査をすることで、地域にあった被害対策の検討ができるのではないかと考えられます。

【2. 既存防除法の評価、および新しい防除法の経費・施工性等の評価】

林家考案の「金網素材のツリーシェルター」、市販の「樹脂製網のツリーシェルター」、「ヘキサチューブ」、「くわんたい」の4つの防除法を比較調査しています。

ヘキサチューブでは、チューブより伸長したのもも出ており、樹高等を考慮した上で一部チューブを外して経過をみることも考えています。

【3. 新しい忌避剤の検討】

トウガラシの辛み成分をマイクロカプセル化したものの懸濁液と天然ゴムの懸濁液を混ぜ、水で薄め、ヒノキ苗木に塗布する方法を実施しています。予備試験では効果が期待できそうでしたが、本格的に11月下旬に2つの試験地で実施した結果、早期に被害を受けました。19年度からは忌避剤の濃度を変えるなどして春～秋の間での試験を継続しています。ただ、5～8月には食害そのものが少ない時期であったことから効果判定は難しいところです。

【4. 既被害木の復旧方法の検討】

既存被害地を放棄するのではなく、単木的に復旧が図れないかということで、試験地設定時に存在した被害木や、試験木のうち激害を受けた被害木に、「金網素材のツリーシェルター」、「樹脂製網のツリーシェルター」、「ヘキサチューブ」、「くわんたい」を被せ、回復状況を調査しています。

当調査研究も残り半年となりました。少しでも今後の参考となる知見を得るため努力したいと思います。(植谷)



甲賀市甲賀町の調査地のようす



〈参考〉ニホンジカ(仔) ※写真は調査地のものでなく、他地域のものです。

表 無処理区の被害経過 (シカのみ)

植栽日 (調査地)	被害部位	被害 程度	調査日																	備考			
			4/19	4/27	5/2	5/11	5/18	5/24	6/1	6/7	6/13	6/20	6/28	7/5	7/12	7/25	8/2	8/9	8/16		8/24	9/5	9/13
4月11日 (甲賀町)	芯 (本)	微害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本 * 3本は芯被害無し
		中害	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		激害	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	枝葉 (カ所)	微害	180	20	32	3	11	0	1	0	0	0	0	0	3	7	0	0	9	1	1	11	調査本数: 10本
		中害	122	6	7	3	4	0	1	0	0	0	0	0	1	7	0	0	2	0	0	5	
		激害	97	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	
4月11日 (土山町)	芯 (本)	微害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 11本 * 3本は芯被害無し(7本シカ被害+1本ウサギ被害)
		中害	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		激害	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	枝葉 (カ所)	微害	93	112	10	3	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	9	0	3	0	0	3	調査本数: 11本
		中害	140	20	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	
		激害	126	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5月11日 (甲賀町)	芯 (本)	微害					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本 * 2本は芯被害無し(繰り返し被害有り)
		中害					3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	
		激害					1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	
	枝葉 (カ所)	微害					8	2	0	0	0	0	0	3	13	2	1	7	1	11	7	0	調査本数: 10本
		中害					13	2	0	0	0	0	0	3	23	1	0	5	4	6	8	0	
		激害					4	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	1	3	2	0	
6月13日 (甲賀町)	芯 (本)	微害										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本 * シカ被害を受けていない2本はワザギ被害
		中害										0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
		激害										1	0	0	1	3	0	0	0	1	0	0	
	枝葉 (カ所)	微害										10	0	0	5	16	3	0	2	9	2	3	調査本数: 10本
		中害										11	0	0	7	9	2	1	7	6	8	2	
		激害										6	0	0	1	0	0	0	0	4	1	2	
6月13日 (土山町)	芯 (本)	微害										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本 * 芯被害無し
		中害										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		激害										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	枝葉 (カ所)	微害										0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	調査本数: 10本
		中害										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		激害										0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7月12日 (甲賀町)	芯 (本)	微害													0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本 * シカ被害を受けていない3本は枯死・ウサギ被害・芯折れ被害	
		中害													0	0	0	2	0	0	0		0
		激害													2	0	1	1	1	0	0		0
	枝葉 (カ所)	微害													11	0	1	5	16	3	7	0	調査本数: 10本
		中害													4	0	5	8	10	2	5	0	
		激害													3	0	0	3	0	0	1	0	
7月12日 (土山町)	芯 (本)	微害													0	0	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本 * 7本芯被害無し
		中害													1	0	0	0	0	0	0	0	
		激害													1	1	1	0	0	0	0	0	
	枝葉 (カ所)	微害													2	2	0	0	0	0	0	0	調査本数: 10本
		中害													1	0	0	0	0	0	0	0	
		激害													0	0	0	0	0	0	0	0	

研修会のお知らせ

第3回森林センター林業技術研修&業務報告会
 日程: 平成19年(2007年)12月17日(月)予定
 場所: 森林センター大会議室

編集・発行 **滋賀県森林センター**
 〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978-95
 TEL 077-587-2655 FAX 077-587-6527
 ホームページ <http://www.pref.shiga.jp/d/shinrin-c/>
 Eメール dj36@pref.shiga.lg.jp (担当: 西村) 2007年11月発行